

瑞浪市議会に関する意識調査（高校2年生対象）による 課題事項と若者への情報発信の在り方について

瑞浪市議会

令和4年1月12日から1月25日の期間で市内3校の高校2年生対象に若者がもつ時事問題及び議会への関心についてアンケート（以下「アンケート」という。アンケート結果は別紙のとおり。）を実施した。アンケート結果について、議員協議会で現状と課題を議論し、今後の市議会から若者への情報発信の取り組みと、市議会における対応について次のとおり決定した。

1. 高校生の議会への関心と今後の課題

アンケートでは「市議会の傍聴、議会中継の視聴、議会報告会の参加」について「見てみたい、参加してみたい」など前向きな回答は17.2%に対し、「見たくない、参加したくない」の回答は72.3%と高かった。また、「市議会の活動に関心がない」と感じている生徒の割合は92.5%と非常に高く、「議会への関心がないと感じる理由」の問いでは、「内容が難しいから(53.3%)」、「市議会を身近に感じたことがない(37.3%)」の回答が多かった。

アンケート結果から、現状の情報発信方法による生徒への市議会活動の周知不足と、生徒と市議会の接触機会の低さが招く市議会への関心の低さが課題であり、また、これは高校生のみではなく若者全体にいえることと認識した。

2. 今後の市議会から若者への情報発信の取り組み

アンケート結果を踏まえ、今後若者に対する情報発信は次の3点をベースにし、すぐに取り組みが可能なものは実施し、その他については実施に向け検討していく。

(1) 市議会の活動を広く周知する

若者に市議会活動を知ってもらい、市議会を身近に感じてもらうことを目的に、行政の動きに対する市議会活動を周知する機会を増やすために、次の3項目に取り組む。

① 市内高校に議会広報紙の配置を依頼する

「市議会に関心を持つことができる方法は何か」の問いに対して25%の生徒が「議会広報紙の高校への配布」を選択しており、高校へ配布し、生徒が議会広報紙を目にする機会を増やす。

② 若者の利用が多い施設（Mビル等の駅周辺施設、商業施設等）に議会広報紙を配置するなど、配置場所を再考する

市内在住者のうち議会広報紙を読んだことがある生徒は4.9%と低く、自宅で広報紙を読む機会は少ないと感じる。このため、議会広報紙の若者の手に取りやすい配置場所を再考し、配置できるよう調整を進める。

③ 高校への出前講座の開催や若者との意見交換会の場を検討する

「市議会に関心を持つことができる方法は何か」の回答に対し、「議会による学校への出前講座が開催されること」の選択が20.4%、「市議会と若者の意見交換会が開催されること」の選択は16.4%であった。若者との意見交換の場を増やすよう、高校への出前講座やオンライン意見交換会、各地区における若者との意見交換会等を検討する。

(2) 市議会の活動を分かりやすく発信する

若者に市議会の仕事や役割に関心を持ってもらうために、分かりやすい表現で若者の視覚を捉える情報発信を検討していく。

アンケートでは、生徒から「難しい単語を分かりやすい文面に変換してほしい」や「市議会活動をイラスト化するなど分かりやすく発信してほしい」などの意見があった。このため、議会広報紙の原稿作成について、若者向けの連載コーナーや、高校と連携した紙面の作成など、若者が興味を持ちやすい紙面への取り組みを検討していく。

(3) 若者のニーズに対応した情報発信を検討する

情報技術を活用した情報発信は、若者をはじめとする広い世代のニーズに対応した多くの可能性が期待できる情報発信手段であるため、導入を検討していく。

アンケートで「市議会に関心を持つことができる方法は何か」の問いで、最も多い回答は「SNSをした情報発信(46.7%)」、また「市議会と若者がSNS等を利用した意見交換ができること(22.8%)」が多かった。SNS利用による情報発信は、多くの世代が簡単に見ることができ、分かりやすい内容での発信が可能であり、特に若者のニーズに対応した周知方法のため導入は不可欠と考える。ソーシャルメディアの利活用により多くの可能性が期待できるが、導入には規定の整備、リテラシーの醸成など運用にかかる課題があるため、段階を踏んで進めていく。

3. 今後の市議会における対応

今回のアンケートにより、高校生からいただいた貴重なご意見は、議員で共有し議会活動に取り入れるなど、有効に活用していきたい。また、「議会への関心がないと感じる理由」の最も多い「内容が難しいから」に対しては、議会での説明は、一般的に使用しないような行政用語や専門用語をできるだけ使用せず、市民がわかりやすい表現とするように努めていくこととする。

今回のアンケートによる取り組みが、若者の政治や市政に対する意識の変化や、議会から若者への情報伝達の度合いを検証していきたい。